

地方自治体の未来を考えよう！

一橋大学大学院法学研究科 准教授 片山 良太

今回は、地方自治体の未来をテーマにご紹介します。日常生活においてIT技術が急速に普及し、今後、地方自治体における労働力の不足が予想されている中、将来の地方自治体の運営を考えるにあたっては、IT技術への対応は避けて通れなくなっているかと思えます。一方で、住民の価値観が多様化する中で、経済的な豊かさだけでなく、住民の幸福や満足度を追求する取り組みも見られるようになってきているのではないかと、思います。

1冊目は、『未来政府—プラットフォーム民主主義』（ギャビン・ニューサム、リサ・ディッキー／著、稲継裕昭／監訳、町田敦夫／訳、東洋経済新報社、2,592円）です。著者は、今

後の政府のあり方について、税金を集めて、一定の行政サービスを提供する、いわば「自動販売機」のような存在から脱却し、自分たちであらゆる問題を解決するのは無理だと認め、市民の自発的な関与を促す「プラットフォーム」となれ、と主張しています。

また、本書では、ミレニアル世代と呼ばれる30歳以下の人々はプライバシーをあまり気にかけず、プライバシーのない世界

になれば、これまでインターネット上の炎上合戦の原因となってきた匿名性も終わりを迎える、と主張しています。インターネットを通じた情報発信といえば、いわゆる「炎上」への懸念がまず思い浮かびますが、こういった主張は、地方自治体における今後のインターネットを通じた情報発信のあり方にも、示唆に富んでいるのではないかと、感じました。

2冊目は、『幸福とは何か—思考実験で学ぶ倫理学入門』（ちくまプリマー新書）（森村進／著、筑摩書房、929円）です。本書では、幸

福に関する「快樂説」（幸福とは何らかの快い心理状態のことだとする説）、「欲求実現説」（本人の望んでいる事態が実現すること自体が幸福だとする説）、「客観的リスト説」（本人の信念や欲求とは独立に、健康とか豊かな人間関係とか理性といった、幸福を構成する客観的な要素が複数あるとする説）

といった各学説について、思考実験を行いながら、わかりやすく紹介されています。

本書には「どうすれば幸福になれるのか」という人生論は書かれてはいませんが、読み進めていく中で、「幸福」についての考え方が頭の中ですっきりと整理されていく感覚を覚えしました。皆さんの自治体で、住民の幸福や満足度を追求した取り組みを行う際にも、どのような意味での「幸福」を追求するのかを一度考えてみると、何かの参考になるかもしれません。

最後に、「ITパスポート」という資格をご存知でしょうか（<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>）。私も受験したのですが、一度勉強すると、アルファベットの略称ばかりで何かと敬遠しがちなIT用語に抵抗がなくなるのでおすすめです。

また、最近、若手国家公務員も参加している団体で、省庁横断の報告書検索サービスをつくってくれました。『未来政府』にいう「市民の自発的な関与」に、自ら取り組まれています。新年度の初めに、各省庁の報告書を参照される際には、是非活用してみてください。「省庁横断の報告書検索サービス「CLIP」」（<https://clip.mokuba.tech/>）



『幸福とは何か—思考実験で学ぶ倫理学入門』
森村進／著 筑摩書房



『未来政府—プラットフォーム民主主義』ギャビン・ニューサム、リサ・ディッキー／著、稲継裕昭／監訳、町田敦夫／訳 東洋経済新報社

